



日向屋 (株) 日向屋 代表取締役 岡本和宜

自己紹介

- ①岡本和宜 43歳
- ②高校卒業後 サービス業8年
- ③農業従事歴 17年
- 役職
- ①岡本農園 代表
- ②(株)日向屋 代表取締役
- ③田辺市観光協会 常任理事



和歌山県田辺市上芳養とは

- ①人口は2020年度 約1542人。
2040年には約1129人まで減少予測。高齢化率約40%
- ②基幹産業は、梅・蜜柑を中心とした農業。次いで製造業。
- ③小学校の児童数の推移。
私が小学校6年（今から31年前）全校生徒数156人。
現在75名。 少子高齢地域。
- ④観光資源
田辺梅林（観梅） 2月のみ。

地域の課題

- ①高齢化により作付面積が大きく減少。空き園地の増加。
- ②担い手不足による耕作放棄地の増加。
- ③深刻化する鳥獣害被害。
- ④農産物の価格不安定。
- ⑤人口減少による雇用確保。
- 将来の農業従事者がこの地域にはいなくなる可能性。
- 子供達が農業をしたいと思う環境になっていない。
- 家業が農業だから将来農業を継ぐという時代ではない。
- 既存の農業スタイルを変えないと子供達が憧れる職業にはならない。

近々の課題 鳥獣害被害

- 7年前から急に鳥獣害被害が大きくなると増え始める。
- 被害内容
 - ①イノシシによる柑橘類への食害と園地を掘り返さる被害。
 - ②鹿による梅の木への食害。（梅の木が枯れる）
 - ③サルによる柑橘と梅の食害。
- このままでは農産業を維持できない状況。

被害が増えた原因と対策

- 被害が増えた原因
 - ①農業従事者の減少
 - ②耕作放棄地の増加
 - ③ハンターの減少
 - 15年前は週末になると巻き狩りに毎週5人から10人位が山に来ていたのが、5年前にはゼロに。
- 対策
 - ①防護ではなく捕獲。
 - 根本的な解決を目指す。
 - ②狩猟チームの結成。
 - ③山や狩猟について学び。
 - ④捕獲計画を策定。
 - 共存共栄を目指す。

狩猟チーム・TEAM・HINATAの結成

- ・鳥獣害の根本的な解決を目指す為、5名で狩猟免許を取得。
- ・設置ワナ数（100基・くくり罠）
- ・活動1年目で約120頭（鹿・猪・猿）の捕獲に成功する。
- ・地域の方々からの沢山の感謝の声を頂く。

その一方で葛藤と疲弊していく自分。

自分達の生活を守る為の狩猟が精神的に重くなってきている。

動物を殺す行為が・・・。自分達の為なのか？

自分のやりたい農業は有害・獣害の名のもと動物を殺して、梅・蜜柑を栽培をしていく農業か？

この形の農業は子供達がしたいと思うのか。

自分のやりたい農業は、人と人が関わり合い、畑に来たいと思ってもらえる農業だったはず。

人と人が繋がり、地域に人を呼ぶ仕組みを作る農業がしたかったはず。

- ・農業と鳥獣害でイノベーションを創出したい。ジビエと農業で地域に人を呼ぶコンテンツを創るしかない。

ひなたの杜（ジビエ加工処理施設）



ひなたの杜の誘致について

- ズビエと活用するには、処理施設が必要です。
- 地域住民の声 反対する声。ほぼゼロ。
- 若い世代が地域の為にそこまでするなら、地域としては反対できない。（区長のこれからは必要やの一言）
- 一方で、行政から言われた現実の一言。

岡本さん全国にはズビエ施設は約500あります。そのほとんどが赤字ですよ。民設・民営でやっていけますか？

施設建設前に湯川とは腹を割って随分、話した記憶があります。

ジビエ施設の運営について

- 施設運営の課題（従来）
 - ①捕獲数量の確保
 - 施設運営と安定供給
 - ②販路開拓
 - 販売方法手段（ノウハウ）
 - ③廃棄処分費
 - 産業廃棄物
 - ④ストックスペース不足
 - 需要と供給のバランス
- （株）日向屋×ひなたの杜
 - ①捕獲数量の確保について
 - 田辺市内（市外）約8ヶ所で説明会を実施。現在では約80人が施設の運営に協力してくれています。
 - ②販路開拓
 - 積極的に営業活動を実施し当初は取引先が8ヶ所だったのが現在では県内外を含め60ヶ所を超えました。
 - ③廃棄処分費
 - この問題は現在も未解決・・・
 - ④ストックスペースの不足
 - ストックスペースが不要

各地域（田辺市内や地域外）での説明会を実施。計8ヶ所

**猪、鹿を罾や檻
で捕まえたら
殺さずに
お電話下さい。**

090-6916-0402
担当 湯川

0739-33-7870
ひなたの杜

お名前、場所、猪や鹿の
状態等を聞いて
時間を打ち合わせてから
現地に伺います。

猪鹿食肉販売
ひなたの杜
和歌山県田辺市上芳養469-2

※和歌山ガイドラインにより
引き取れない個体があります。

○引取出来ない個体例

- 1, 引き取り時に既に死亡している個体
- 2, 檻、罾で捕獲された個体のうち、
全体損傷(打身等) がみられるもの
- 3, 銃による捕獲において、スラッグ弾、
6発弾、9発弾 以外を使用しているもの
- 4, 腹部被弾、内臓損傷が疑われるもの
- 5, 高熱を呈しているもの
- 6, 全身麻痺などの神経症状を呈しているもの
- 7, 脚をハの字に開いて歩く、或いは足取りが
おぼつかないもの
- 8, 異常な鼻水、または垂れているもの
- 9, 幼獣
- 10, 担当者の判断によるもの 等

○連絡時には、個体の状態もお伺いします。
出来る限りお答え下さい。

ひなたの杜 担当 湯川 090-6916-0402
ひなたの杜 0739-33-7870

ジビエPR活動



Restaurant Caravansarai



(株) 日向屋 × ひなたの杜 × Caravansarai



1つの理念のもとに人が集まる

地域を共創する。ビジネスとして共走する。

ジビエ施設を誘致するにあたり一番大事にした事。

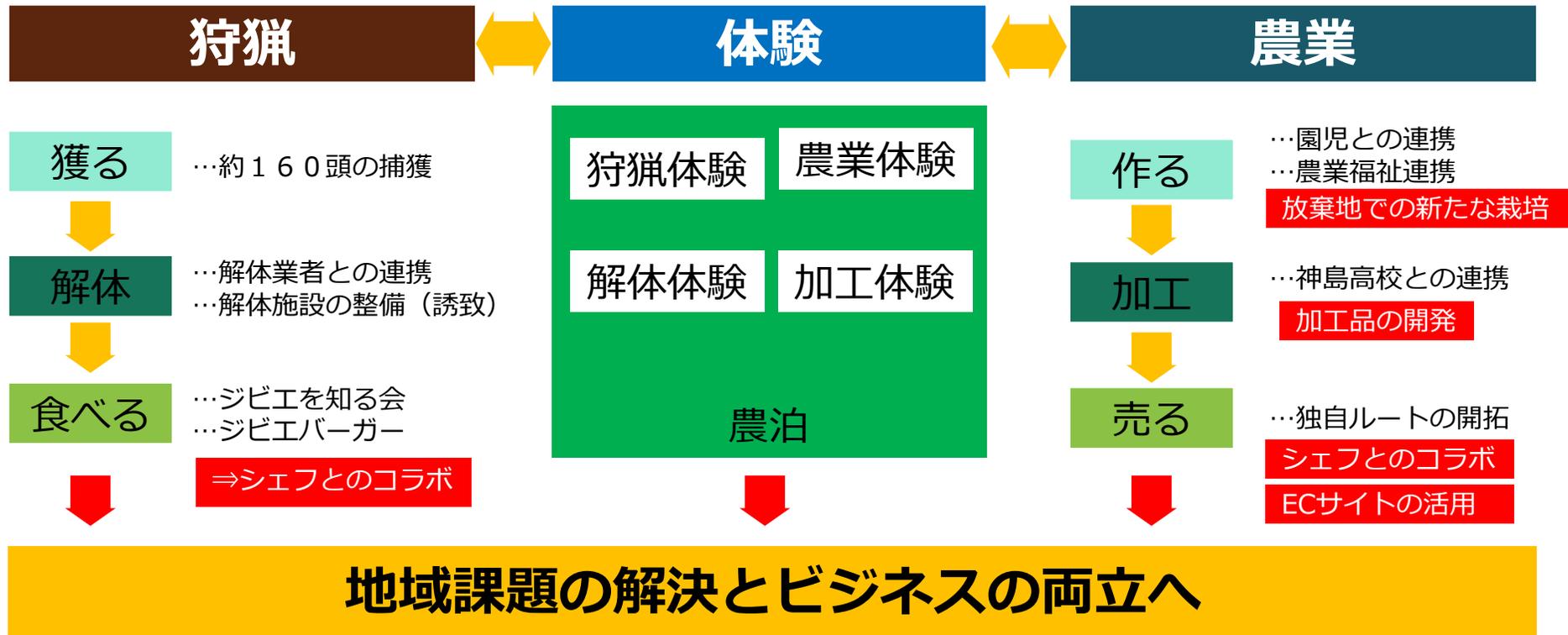
猪、鹿を解体し販売するだけの施設ではなく、施設自体を商品として販売する事で地域の発信に繋げる。

地域の施設として多くの人に関わる仕組みを創る。

地域の新しい観光資源として。

(株) 日向屋の活動

(株) 日向屋の活動



鳥獣害の減少、耕作放棄地の減少、雇用の確保、農業の担い手確保...

(株) 日向屋ビジネスモデル

体験事業を実施



地域に人を呼ぶ仕組み



(株) 日向屋ビジネスモデル

担い手不足の解消



農作業受託事業を実施



(株) 日向屋ビジネスモデル

耕作放棄地の再生



首都圏での販売



(株) 日向屋ビジネスモデル

農業研修生の受け入れ



耕作放棄地を再生し研修生に提供



伝える事の必要性

地元 保育園との連携



卒園児の思い出作り



伝える事の必要性

地元 小学校と未来の農業を考える



産業ドローンを体験



中学生・高校生・大学生のとジビエ学習



地域に関わる人を増やして行く。



地域に新しい風を吹かす



移住でなくともいい、関係人口から



農業 × 地域資源（梅・蜜柑・ジビエ・人）



日向屋のサステイナブル



最後に

- 地域の資源や文化は地域の人たちの宝です。地域の未来図はその地域で未来を生きる方々が中心になって描き、また、移住者がスパイスを入れ、それを伝えていく事が日向屋の大きな使命です。
- ズビエの施設を誘致した事で、狩猟免許取得者が大きく増えました。
- 結果、現在では80%近くの被害が減りました。
- 関係人口創出が上手く行き、地域に足を運ぶ、または移住希望体験者は毎月来ています。
- 民設・民営だからこそその強みを活かせば、ズビエ施設の黒字化は可能です。
- 農業と鳥獣害は最高のペアです。